「ばあさん、行って来るよ。」

と出かけただど。

じいさんは、高い宝の山を目指してどんどん山の中に入り、きの根坂を登り、岩山の峰を越えて、大きな石の重なる間を通り、ようやく頂上にたどり着いただど。

「やれやれ。」

と岩に腰を下ろして、煙草を吸いながら、雲海に浮かぶような四方の千里の風景を眺め

「なんと、すばらしい奇麗な里住まいであろうか。」

と、すがすがしい大気の中に、感激して、

「ああ、ばあさんに一目見せたい。」

と思っただど。

雲のたなびく彼方に一ヶ所光り輝く目立って美しく奇麗な里が見える、見えているうちにその処に行って見たい、飛んで行きたい気分になってひとり言を言うと、手に羽根が生